

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立白石小学校
1 前年度 評価結果の概要	①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の成果が上がっており、学力向上と関連させて取り組みを継続させたい。 ②配慮を要する児童に対して、より適切な指導を行うために、特別支援教育に関する教職員の資質向上をいっそう図る必要がある。
2 学校教育目標	豊かな心と健やかな体で、いきいきと学ぶ子どもを育成する。
3 本年度の重点目標	① 学指導要領が求める「育成すべき資質・能力」を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。 ② 特別支援教育における教職員の資質・能力について、「児童理解」「交流及び共同学習」「校内外との連携・協働」を観点として向上を図る。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・コロナ禍で、休校や学習形態等の制約も多かったが、成果指標の達成に向けて、全員が真面目に取り組むことができた。 ・個に応じた指導や習熟の時間の確保、児童の主体的な学びのための授業改善が課題である。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は75%だったが、日々の授業を大切にしながら、全職員で、学力向上に取り組むことができた。 ・1年算数科と6年理科において、プログラミング学習の授業公開と授業研究会が自主的にでき、有意義な研修の場となった。
	○校内研究の充実	○「自分の考えを書いたり、話したりすることができる」と答えた児童80%以上 ○授業の振り返りの観点を理解して、振り返りをすることができた児童が80%以上	・深い学びにつながる対話的な学びになるように、児童が考えを表現し合う場面を工夫する。 ・「ノート名人」「ふりかえり名人」の観点について全職員で共通理解し、指導に当たる。	B	・3密の制限の中、話し合う場面を工夫しているところだが、児童が必然性をもって話し合えるよう、設定を更に工夫する。 ・ノートのかき方や振り返りは、本校の観点を理解して指導を続けることができている。	A	・算数の授業において、感染症対策をしながら必然性をもって話し合えるように場面や時間を絞って学び合う授業を続けることができ、自分の考えを書いたり話したりできた児童が80%以上に達した。 ・ノートのかき方は全学年で身につけていて、本校の観点を理解して振り返りをすることができた児童は80%以上に達した。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童・保護者80%以上	・ふれあい道徳を実施し、全クラス授業を公開する。 ・授業後、ワークシートに感想や振り返りを書かせ、学級便り等で保護者へ知らせる。	B	・ふれあい道徳は2学期以降の参観日で実施予定である。 ・授業後のふりかえりを各学級の実態に応じて行うことができた。学級によりや教室掲示で保護者へ知らせることができた。	A	・ふれあい道徳は、全ての学級で取り組むことができた。 ・道徳の授業が好きだと答えた児童は80%、ふれあい道徳が児童の心を動かす学習になっていると回答した保護者は94%。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていたと回答した教員80%以上 ○いじめ等の対応や指導を適切に行っていると答える保護者が80%以上	・毎月「心のカード」を実施する。 ・人権集会(教室)を計画的に実施する。 ・学級経営案に沿って、学期ごとにPDCAを行う。 ・気になる児童については、「支援相談委員会」で共通理解し、対応策について協議する。(月に1回・緊急時は、適宜)	A	・毎月「心のカード」を実施し、児童の実態把握に努めるとともに、必要に応じて聞き取りや事実確認を行うことで指導に役立てた。 ・定期的に「支援相談委員会」を開き、職員の共通理解を図って、対応策についても協議することができた。 ・人権集会については、2学期実施予定である。	A	・年間を通して「心のカード」に取り組み、児童の実態把握に努めたことで、早い段階での対応ができた。 ・毎月、「支援相談委員会」を開くことで、支援を必要とする児童への共通理解を図ることができた。 ・人権週間を設け、人権標語や各クラスの合言葉づくりに取り組んだ。また、人権集会では講師を招いて人権の大切さについて学ぶことができた。
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎将来の夢や目標に向かってがんばっていると答えた5・6年生児童80%以上 ◎佐賀県(白石町)の良いところを知っていると答えた4～6年生児童(1～3年生児童)80%以上	・地域の郷土学習資料や県教委作成の資料等を活用した授業に取り組む。 ・出前授業等を活用し、専門家の話を伺うことができる場を設定する。	A	・5年生は社会科で海苔養殖について、6年生は公民分野で町の政治や白石町議会の仕組みについて学び、携わる方々の願いを知った。 ・園工で佐賀県特産品をイラストにする活動を、佐賀県のよさを再確認できた。	A	・社会科の学習を中心に、地域の郷土学習資料等を活用した授業に取り組むことで、佐賀県の良いところを知っていると答えた児童の好意的評価が90%以上に達した。 ・GTを招いた出前授業を開催したり、キャリアパスポートに定期的に取り組んだりすることで、◎将来の夢や目標に向かってがんばっていると答えた児童の好意的評価が90%以上に達した。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●規律正しい生活(睡眠・運動・食事など)を送ることができた児童80%以上	・9月、1月にはなまるすこやかチェックを実施する。保護者とも連携し、生活の改善につなげる。 ・歯科校医、在宅歯科衛生士と連携し、歯科教室(ブラッシング指導等)を実施する。	A	・7月に実施した生活習慣アンケートの結果、10時までには就寝できている児童は82%、朝食を食べている児童は96%で目標達成できている。 ・歯科教室は秋に延期になったが、薬物乱用防止教室と防煙教室は実施することができた。	B	・はなまるすこやかチェックの結果、目標就寝時間までに寝ている児童の割合は、9月72.1%、1月64.2%で目標の80%には届いていない。ゲームやYouTubeの使用時間とも関係しているのではないかと考えられる。朝食を食べる児童の割合は9月、1月ともに93.4%だった。
	○運動習慣の改善と体力づくり	○週に3日以上は、休み時間に外で遊んだりスポーツをしたりした児童が80%以上 ○外遊びを奨励し、児童の体力向上に心がけた教員90%以上	・委員会活動の中で、外遊びや体力づくりについて企画し、放送等で紹介する。 ・持久走週間・長縄跳び月間などに全校で取り組む。	B	・低学年や中学年に関しては外で遊ぶ姿が見られた。「みんなで遊ぶ日」等を実施していることで外に出ることが多くなっているようだ。	A	・持久走週間や長縄跳び月間など、全校で重点的に取り組むことを決めて、体力づくりを推奨することができた。ボールやフリスビーなどの用具を充実させることで、外で遊ぶ意識が高まったようだ。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(1か月:45時間 1年間:360時間)	・学級事務の時間確保のために週時程を工夫する。 ・校務サーバーのフォルダを再構築し、効率的なデータ管理を行う。 ・町内一斉及び校内の定時退勤日を遵守する。	B	・木曜日を短縮校時として、放課後に行事等を設定しないように工夫したことで学級事務の時間を確保できている。 ・校務サーバーのデータ管理は、来年度を意識して構築していきたい。 ・定時退勤日については、まだ徹底できていない。	B	・校務サーバー内を整理し、効率的なデータ管理を心掛けた職員は100% ・見通しを持って業務に当たったり定時退勤日を守ったりして時間外勤務の削減に取り組んだ職員は70% ・時間外在校時間の1ヶ月の全職員の平均は45時間を下回った。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
○特別支援教育	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育の専門性が向上した教員が80%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・校内支援委員会(ケース会議)を実施する。 ・「支援相談委員会」において情報を共有する	A	・校内研修を実施できた。 ・ケース会議は8月に実施予定。 ・支援相談委員会は児童の様子に共有に役立っている。	A	・校内研修や支援相談委員会を通して、児童に対する理解が深まり、支援の在り方について学ぶことができた。(達成またはほぼ達成の職員 100%) ・ケース会議では、校外の専門機関とも連携を取ることができた。
○地域連携	○学校、家庭、地域が協働した取り組みの推進	○「あいさつ・家庭学習・手伝い・自力登校」ができていると答えた保護者が80%以上 ○体験活動が充実していたと答えた児童が80%以上	・毎月1日に、メール配信により、啓発を図る。 ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を通して、地域の人材を生かした体験学習を計画する。	B	・毎月1回のメール配信による啓発活動はまだできていない。 ・地域人材を生かした体験学習を計画・実施しているところであるが、新型コロナウイルス対策により、予定通り実施できないこともあった。	A	・あいさつ・家庭学習については、できていると答えた保護者が80%以上、手伝いについては、手伝い・自力登校ができていると答えた保護者が80%以上 ・体験活動が好きだと答えた児童が80%。特に高学年は、専門的な活動を90%の児童が好んでいる。
○読書活動	○読書活動の充実	○年間読書100冊に達した児童が90%以上	・多読賞や読書マスターの紹介・表彰、「規定の冊数ごとに花を咲かせる掲示」を継続する。 ・図書館便りなどで学校での読書活動について具体的な実践を知らせる。	A	・100冊貸し出し達成が67人(41%)、1人あたり平均87.3冊借りることができた。 ・図書館便りや学級通信で学校での読書活動の様子やおすすめの本の紹介を知らせることができた。	A	・100冊貸し出し達成が154人(93%)、1人あたり平均230冊借りることができた。 ・図書館便りや学級通信で学校での読書活動の様子やおすすめの本の紹介を知らせることができた。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・校内研では、引き続き算数科の研究に取り組んだ。ノートや振り返りの書き方の観点について、全職員で理解し、指導に当たったため、成果が表れている。また、教職員間でマイプランを共有し、学力向上に取り組むことができた。来年度は、さらに深い学びにつながる対話的学びになるように、研究を深めたい。 ・来年度はGIGAスクール構想により一人一台の学習者用端末の利用が可能になる。学力向上につながる端末活用を努めていきたい。 ・新型コロナウイルスや自然災害等から身を守るための、保健指導や防災教育に今後も継続的に取り組む必要がある。
----------------	--